



1. 新年度も早一月が過ぎました。

桜若葉がみずみずしい季節となりました。新年度も早一月が過ぎ、子どもたちは新たな学年での生活を軌道に乗せ、目標に向かってさまざまな取り組みを進めています。

さて、学習指導要領では、育成をめざす3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身につけるために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(アクティブラーニングの視点に立った授業改善)の推進が求められています。

本校では、今年度の学校教育目標を「自他を大切にし、自ら考え、自ら学び、予測困難な時代を生き抜く心豊かでたくましい子どもの育成」とし、重点的な取組の一つとして、「わかった!」「できた!」と呟きが聴こえる授業や共に学び合い、課題を解決する時間を取り入れた授業など、子どもたちの「学び」を充実させる授業づくりに取り組んでおります。常に新しいことが求められる教職員も、子どもたちと同様に、アクティブラーニングの視点に立って日々業務を進めております。真の意味で切磋琢磨、相互支援ができる組織(チーム)になるよう引き続き努力していく所存です。

2. 授業参観、保護者集会を行いました。

4月25日(木)4時限目から6時限目を授業参観とし、多くの保護者の方に子どもたちの様子をご覧いただきました。そして、各学年の保護者集会において、1年生は宿泊学習、2年生は校外学習、3年生は修学旅行と進路について説明させていただきました。新しい学年・クラスになって初めての校外での学習となります。子どもたちが、新しい見方や考え方で友達やクラスを見直して、新しい学年、新しい担任の先生のもと、互いに絆を深めてくれると思います。楽しく、充実した素晴らしい学校行事となるよう事前学習・事後学習にも取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 相手を重んじ、互いに気持ちよく過ごすことの大切さ

学校生活において、「相手を重んじ、互いに気持ちよく過ごすこと」はとても大切なことと思います。「相手を思いやる、相手を敬う気持ち」を大切にすることを育んでまいります。

日本で働きたいと熱望する海外の若者たちの中には、「自分のことより、人のことを考える国民は日本人以外にいません。礼儀正しい日本人の心に触れながら仕事をしたい」と思っている若者がいるそうです。日本の相手を重んじ、互いに気持ちよく過ごすことを大切にす文化や、とくに「自己犠牲」の精神文化は現在、海外から高く評価されているようです。

戦前・戦後を通じて日本の教育界最大の人物に、森 信三(もり のぶぞう)氏がいます。森 信三氏は、学校職場の再建三大原理「時を守り 場を清め 礼を正す」を提唱しました。「時間を守る、そうじや整理、整頓ができる、あいさつや返事ができる」などの基本的な生活習慣が身につけている学校は、子どもたちが互いに学び合い、刺激し合い、成長し合うことができる学校だと思えます。まさしく、日本が海外から高く評価されている重要な部分ではないでしょうか。これからも、海外からも高い評価を受けている日本の強みである「相手を思いやる、相手を敬う気持ち」を大切にすることを育んでまいります。